

9月 ようちえんだより

今年の夏はオリンピックが開催されました。オリンピックは「国の代表」が競い合うスポーツの祭典ですから、見ている者も当然、自国の選手の勝ち負けに一喜一憂します。しかしオリンピックの目的は「世界平和」です。自国の選手が金メダルを勝ち取ると誇らしく感じますし優越感を味わえます。でも競技終了後にお互いの健闘を称え合う選手の姿に、惜しくも敗れた選手のこれまでに重ねてきたであろう苦しい練習や想像を超える努力に敬意を払い、と思いました。

そしてこれまでと同じように、広島、長崎の原爆の日、終戦記念日を迎えて、平和について考える夏でもありました。

新約聖書に「平和を実現する人々は、幸いである」という聖句があります。（マタイによる福音書 5章9節）。

この聖句について中道基夫さん（公益財団法人神戸YMCA 理事長、関西学院大学神学部教授）は、「人々」と複数形になっていることに注目して「平和は、個人の業ではなく、複数の人々によって実現されるものである」¹と述べています。

また関田寛雄さん（日本基督教団神奈川教区巡回牧師、青山学院大学名誉教授）は、「英語でいうと“Blessed are the peacemakers”と書いてあり（略）ピースフルパーソンではない…「平和な人間」ではなく「平和をつくるもの」こそが幸いであるといわれている」²と述べています。

「平和を実現する人々」とは、テロや戦争などに対してだけでなく、例えば、私たちの日々の生活が他国の人たちに対する搾取や抑圧と繋がっているかもしれない、という課題に対しても、国や人種や言葉の違いを超えて、更には人の生涯よりも長い時間が必要な課題に対しては世代をも超えて、克服しようと努力し、互いに協力し合う、そのような人々を指すのだと思います。

子どもたちがそのような人々に成長してくれることを願い、幼稚園に通うこの時期にこそ必要とされる、そのような成長のための学びと育ちが、子どもたち一人ひとりに実現されるように努めたいと思います。

年主題 『平和をともに』

<年主題聖句> 「キリストは私たちの平和であります。」

（エフェソの信徒への手紙 2章 14節）

9月主題 『いっしょに』

<聖句> 「平和な人には未来がある。」

（詩編 37 : 37）

¹「いま、聖書から聴く 22 の平和説教集」日本YMCA同盟編、かんよう出版

² 同上